

## 書店・図書館等関係者における対話の場（第4回）議事要旨

日時：令和6年3月6日（水）14:30～16:20

場所：文部科学省9階総合教育政策局会議室及びWeb会議

出席者：淺野隆夫（Web）、井之上健浩、今村翔吾、植村八潮、大場博幸、岡部幸祐、私市憲敬、曾木聰子、高井和紀（Web）、高島瑞雄、成瀬雅人、春山正実（Web）松木修一、吉本馨（以上敬称略）

（事務局）高木地域学習推進課長、朝倉図書館・学校図書館振興室長、毛利地域学習推進課専門官、近藤図書館振興係長、千葉図書館振興係主任

○開会の後、事務局より配付資料の確認が行われた。

### （1）書店・図書館等関係者における対話の場（第3回）議事要旨（案）

事務局より、資料1に基づき、第3回の議論の概要について説明があった。

### （2）優良事例の収集・普及について

事務局より、資料2に沿って、このことの進捗について、3月15日まで募集を行い、まとまった時点で構成員に共有し、今後の進め方についてメールで相談することとしたいとの報告があった。

### （3）「対話のまとめ」（仮称）について

事務局より、資料3に基づき、構成員からの意見を踏まえた修正点を含め以下のとおり説明があった。

資料3は、2月19日から26日までの期間、メールで御覧をいただき、5名の方から御意見を反映したものとなる。「「図書館本大賞」（仮称）の創設」は、京都サミットで今村構成員がプレゼンされていたアイデアを御紹介した形だが、こういった形で御紹介してよろしいか、さらに、5ページ目、主に岡部副座長から修正があった、長い文章を落としているパートについて、確認、お諮りしたい。

【座長】 以上の説明についての御質問や御意見をいただきたいと思います。御質問、

御意見のある方は举手をお願いいたします。

【文部科学省】 御意見を既におっしゃられた方で、先ほどの説明で不十分な点等の補足があれば、そういった点も御意見いただければと思います。

【副座長】 すみません、私のほうから口火を切らせていただいて、資料3ページのところですね。先ほどお話がありました、書店・図書館等の連携促進に向けてというところの文章ですけども、先ほどお話がありました「過度な複本購入や地元書店からの優先仕入れの推奨」という文章について、議連の第一次提言では、ちょっと読みづらいかも知れないんですけども、「過度な複本の購入」は「推奨」ではなく「ルールづくり」にかかっているんだと思います。

実際ルールづくりは今回は難しいというお話だったので、こういうふうになったのかもしれません、やはり第一次提言では「複本や地元書店からの」という形になっていますので、これが「購入の検証」となってしまうと、複本は購入の検証をして終わるということになってしまうので、ここは第一次提言のとおり記載しませんと、第一次提言を勝手に変えるわけには。その後の発言の中で変わっていく分にはいいと思うんですけども、小さなことではありますけども、元の第一次提言のままにしていただければというふうに私は思っております。

【文部科学省】 ここは「ルールづくり」にかかっているということで。

【副座長】 はい。今回、ルールづくりはいきなりは難しいというお話は、この後も出てきますけども。

【文部科学省】 恐れ入ります、では引用させていただきたいと思います。

【座長】 確認しますと、「例えば過度な複本や地元書店からの」。元のままでよろしいという。

【副座長】 そのまま、第一次提言のとおりにしていただければと思います。

【構成員】 今の副座長の提案で、私もよろしいと思います。ここでは「第一次提言では」と言っているので、このような提言があったよと受けた上で、次の後の段落で、実際は2冊未満で、必ずしも過度とは言えないと、我々は確認して、だからこそ、大場座長の研究成果による①、②を共通認識としたというプロセスはすごく大事だと思うんですよね。

だとすると、この①、②は共通認識だということをもっと強く打ち出していいと思います。我々だけで確認したのではなくて、これは広く図書館界や出版界に受け入れるよう促したいと思います。零細少部数の出版だったら、複本をしたほうが売れているのかもしれません

ません。一方においては、やはり特に売れる本、たしかデータでは20万部以上だったかと思いますが、それが出版の売上げに影響を与えていたんだということを図書館界も認め、出版界、出版社・書店は、図書館がある程度の市場になっているんだということを認める。それを双方が認めて、この問題に関してはこれでもう決着というようなニュアンスをしつかり出したほうがいいと思います。

だから、「本対話の場での共通認識とされた」というと、ここでおしまいになってしまふような気がするのですが、むしろ、書店・出版界、図書館界の共通認識として広く伝えていくとか、そこまで言わなきやいけないと思います。

我々は、この点について決着しましたと。図書館界も出版界も認めましたとしないと、スタートはここですから。ここを曖昧にしたまま手を組みましょうというと、また蒸し返されてしまうようなことになります。はっきりと終えて、業界全体で共通認識にしましょうという提言をしたほうがいいと思うんです。

**【座長】** ありがとうございます。何か文言についての案とかありますか。なければこちらで考えますが。

**【副座長】** こここの「本対話の場での」の文言は要らないということですか。

**【構成員】** そうですね。それが一番分かりやすいと思います。

**【文部科学省】** それもあったほうがいいんじゃないですか。この会議の場で一回認識した上で、さらに踏み込むということですね。

**【構成員】** そう。この1ページの一番下に、「書店・図書館等関係者と共有することにより、関係者間の共通理解を深める一助となり」云々とありますが、この文言が、書店・図書館界、広く共通認識とすると、結論的にしっかりと書いていただきたいと思います。趣旨はそういうことですので、文言はお任せします。

**【座長】** 承知しました。

**【副座長】** 「2 書店・図書館等の連携促進に向けて」の全体の書きぶりとして、最初に確認した共通認識となるような事項を書いた上で、最後に4ページの「これらを踏まえ」のところで結論的に書かれているような書き方になっているかと思います。ここに、どこまで明確に盛り込めるのかということかと思います。

**【副座長】** 「これらを踏まえ」のところに、もう少し大きく。

**【副座長】** ここが、対話の場での結論的なことを書いてある部分になるので、「形式的なルール等よりもまずは関係者間の相互理解が重要であり、図書館等が自主的に判断す

べきであるとした」というあたりに、例えば複本の影響のこととかを入れるというのもあるかと思っています。

または、複本の購入と、①、②を図書館も踏まえた上で、自主的に判断すべきであると いうような書き方もできるかなというふうには思います。

これまでの議論の中で明確にそういう言い方をしてはいないかもしれません、最終的にまとめとしてそういうふうに書いておくというのもあるかと思います。

**【副座長】** そこなんですけども、確かにそれで複本に対してのお互いの認識がここで 固まって、これ以上のこととはそこは言わないとしても、それぞれ影響がない場合と影響がある場合、これに対して、あとは図書館に任せますよと。影響があってもうちはやり続けるよという図書館もあるでしょうし、じゃあうちは考えるよというところもあるんですけど、図書館にあとは全て任せますというのが果たしていいのかどうか。そこには自治体のお考えや首長のお考えがあると思うんですけども、あとは図書館が自分で決めて自分でやりなさいというのが、「図書館等」というのがそこに含まれていらっしゃるのかもしれませんけども、そこについて少し皆様の御意見をいただきたいとは思います。

**【構成員】** だからこそ、ルールがあったほうがいいという考えになりますか？

**【副座長】** そこまで行くと、また話が戻っていくんですけど。

**【構成員】** 私は、前も言いましたけど、ルールは反対です。ただ、例えば図書館界が ベストセラーに関して過度な複本をすることは出版界に影響があるということを、図書館界は受け入れて検討しなさいぐらいのことは言っていいと思います。特に本屋大賞とか直木賞とかそのような本は、やっぱり抑制的でなきやいけないと思うんですよ。それが図書館の自治であり、それこそ地方自治体における自治が問われるんだと思うんですよ。

「私は税金払っているんだから、60冊買って早く私に貸しなさいよ」という利用者の 発言現場に居合わせたことがあります。図書館現場が、そういう人に対して、このような 提言が出ていますと使ってもらえる文言があってもよいと思うんです。

図書館界は、大ベストセラーに関しては抑制的であるべきであると、私は言っていいと 思います。図書館の皆さんにはぜひそれを受け入れてほしい。一方、図書館における複本と いうのはやむなく起こっているということも、出版界の方も認めていただくということは、 ここではっきり書かれたほうがいいと思います。

ただ、何度も言うけれど、それをルールでこう書きましょうというのは反対です。それ こそ表現の自由という場から考えれば、自主的であるべきです。その背景を地域住民にも

受け入れてほしいですね。

【構成員】 ここはぜひ、納得する表現にして残すほうがいいと思います。とても大事なことだと思います。

【文部科学省】 抑制を求める表現ではなく、何か御提案いただけますでしょうか。

【構成員】 まず、「大ベストセラー」というのはやめたほうがいいです。大ベストセラーの人はあまり心配しなくていいんです。中ベストセラーぐらいですね。

【構成員】 それ、ベストセラーの定義も思えば不明ですよね。例えば料理本とかやつたら、ちょっと売れただけでもベストセラーとかって言われたりもするので。

だから結局のところ、これはやっぱりどうしようもないで、意識の方向と、今おっしゃったようにこの図書館、ここもやっぱりそれは見ていて不憫だなと思うんですよ。「税金納めているのに」って。いや、そのベストセラー作家のほうが税金納めているぞって言いたくなるような感じなんんですけどね。

図書館の方は図書館の方で、要は応答の文句を持っていない状況で、今、武器がない状況の中で戦っておられるという感じなので、やっぱりそういうのを用意してあげることも必要だと思う。

ただ、結局実態としては、今おっしゃったように、一個一個詰めていくことはできないし、図書館によって2冊はオーケー、ここは3冊オーケー、これも無理な話なので、方向性を決定づけて明確にしつつも、結構流動性のあるというか、蒸し返すという意味じゃなくて流動性があるような感じなどを——何かここでいうと僕が考えろやみたいな話なんですかね、文章でいうと。

難しいですね。だから、ベストセラーね。ベストセラーでいいような気もしますけどね。だから、おののののベストセラーの判断って、結局のところ、やっぱりルール化するかしないか、意識を持たせるかぐらいの方向性しか、多分ないんだと思うんですよね。で、ルール化するのはやめようという話はもう過去の議論の中でやってきたので、やっぱり方向性の、何か文言だけ美しいのを考えたほうがいいような気がしますね。

【副座長】 それを見せると、利用者が「うん、そうだよね」と言うような文章が。

【構成員】 一方で、ここで決めてしまったら、僕たちは戻ったときに、例えば書店であったり出版社であったりとかで、「複本問題が」とかって言ってくるところは出てくると思うんですけど、僕らがもう、ここで決まったことで、「いや、複本のあれは限定的なんだよ」とそっち側に立たなければ、ここにいた意味がないわけで。

となると、僕は結構これ、けんかしていたわけではないんですけど、一つの和議みたいなもんやと僕は思っているので、和議の出口とひもづけたほうがいいと思うんですよ。お互に歩み寄った代わりに、今後こういう形でという、和議で何が生まれたのかというところとのひもづけがあれば、ここはちょっと曖昧でも行けるような気はするんですけど。そこがぶつ切りだと、ちょっと気まずそうな気がしません？

【文部科学省】　　具体に、どういった文章が……。

【構成員】　　どういった文章でしょうね。難しいなあ。これは国語学者の方のほうがよさそうな気がします。どうでしょう。

【構成員】　　もう一つ、複本について前から気になっていたのですが、これ、人口当たりとか住民当たりというのは、本来あるわけですよ。

例えば世田谷区の人口は90万人います。一方、市立図書館のある地方都市で1万人台の市もあります。計算したら地方都市の1冊のほうが住民あたり冊数が多いことになります。

図書館は行政単位で1館しかないですから、世田谷区立図書館は1館しかないんです。

ホームページで見ると、山ほど複本があるという話をよく指摘される方が多いんです。だけど人口の多い市は分館もあり、館当たりからすると、2冊程度というようなところになります。複本の定義を、脚注でもいいですので、ちょっと書いたほうが誤解されないのではないかでしょうか。人口当たり、というところは考えておかなければいけないかなと思います。

【文部科学省】　　それを書くことによって、人口当たりの複本を示せという形にならないですかね。ちょっとそこが気になります。

【文部科学省】　　そこは、「地方自治体の規模等を配慮して検討する」というような文言を使うのだろうなと思います。

【文部科学省】　　そうですね。少し抽象的な表現の方がよろしいのではないかと思います。

【文部科学省】　　ここに複本の注記を入れたほうがよいということですね。

【構成員】　　いずれにしろ、「図書館等が自主的に判断すべきであるとした。一方」だと言葉が足りないので、この間を補完したいですよね。自主的判断ではなくて、こういうことを受け入れて、あとは地方自治体が自主的に、そこを踏まえて判断しなさい、というふうにならないでしょうか。

【構成員】　　ここは、「(複本や購入のあり方については)図書館等が自主的に判断す

べきとの指摘があった」という表現が、「図書館等が自主的に判断すべきであるとした」と修正されています。この会議体としての結論であるかのように直されている印象を受けたものですから、違和感があって、今日お話ししなければと思っていたところです。

**【構成員】** 複本の影響について、「出版物」と一絡げに言っていますが、多分、売れ行きに影響を受けているのは、エンターテインメントと、例えば、ピケティの『21世紀の資本』や『バカの壁』といった、話題のベストセラーだと思うんです。

前回、図書館での寄贈はやめてほしい、という、ある作家さんのツイートが話題になつたと御紹介しましたけれども、主としてエンターテインメントジャンルの、1万とか2万とか、一定の固定読者がいらっしゃる作家さんがメインなのかな、と思います。プラスベストセラーです。

**【副座長】** 私も以前調査しました、特にシリーズの2巻目とか3巻目は、極端に図書館さんの貸出しが増えると。2巻目3巻目は待てるというところで、その分、部数も落ちるというところはありますから、やはりある程度、先生もおっしゃった大ベストセラー作家は大丈夫なんでしょうけど。

**【構成員】** 図書館も多種多様な本を市民の方に御紹介したいと思っているのは間違いないわけですから、大ベストセラー側に複本どうのこうの規制をかけるのではなくて、多種多様なものをそろえることに向かうというふうにしたらどうですか。こちらばかりに配慮せずに、多岐にわたる本の品ぞろえをということで、包括的にこっちにかけてきたらどうですか。

**【副座長】** そちらに予算を使うことが本来の姿だと。

**【構成員】** そちらにも配慮すると。望まれてベストセラーはいっぱい欲しがるけれど、そちらだけに配慮するのではなくて、多種多様な本を市民に届けていくとか、そういう指針みたいな形でくっつけたらどうですか。

**【構成員】** そのほうが前向きですね。

**【構成員】** 以前、おっしゃっていた、実は複本なんか買う余裕がなくて、そんなことやっていたら品ぞろえがそろわないと。そこですよね。

**【構成員】** 今、自分でちょっと調べているのがあって、平均単価ですね。図書館が購入をしている分で、平均単価がどれぐらいの本を買っているかというと、大体市立図書館レベルだと1,500円から1,800円ぐらい。今は値上がりもありますのでちょっと上がりますけど、安いところだと1,000円を下回る図書館もあるんですけども、やはりそれぐらい

のものが多いというのもあります。

複本を買うのはいろんな意味があって、待っている利用者の時間をどれだけ短くするかということもちろんですけども、最終的にその本を何冊残すかということも図書館といふのは考えるんです。やっぱり最後に1冊は残さなきやいけないということは分かっている。だから、1冊もその作品がないということないようにしようというのも図書館の使命でもあると思います。収集して保存して提供するところがあるから、例えば20年前に賞を取った、直木賞を取った本が、今はもう書店にはないということであれば、それをちゃんと振り返って図書館に行けば見ることができる。

それが、今問題なのは、恐らくベストセラーと言われているのは文芸書のことをおっしゃっている。それ以外にもっと売れている、100万部売れている、『人は話し方が9割』とか、それから『サピエンス全史』等も相当売れましたけども、そういったものについては、値段が高いと買えないとか、安いと買えるけれども、それでもこれはここまで買うほどの本ではないということは、現場の図書館員はよくその選書を行っているというところはあると思うんです。だから、何でも利用者の言ふことを聞いているわけではないということは、ちょっと御理解いただきたいと思います。それが収集方針だと思います。

ただ、残念ながら市立図書館レベルの収集方針に冊数が書いてあるものは、まだ私も調査の初めですけど、あまりない。都道府県立ぐらいになるとありますけども、市町村レベルではそこの複本について踏み込んでいくということについては、予算だとか利用者の状況とかもありますので、明示することはなかなか難しいのだろうなと思います。

だからこそ、こういったところで書かれるということがどういう影響があるかということは、ちょっと考えていただきたいなというふうに思っております。

【座長】　フリーでちょっと進みましたので、オンラインの方にも、もし御意見があつたらお聞きしたいのですが、ちょっと確認いたします。

4ページ目の文言をめぐって、具体的な文言はまだ案の段階ではあるのですが、3点書き加える、あるいは改稿すべきという話が出ました。

1つは、出版・図書館関係者の共通認識として、図書館の複本購入がどういう影響を与えているのかを力強く打ち出すというのが一つです。

2つ目は、ベストセラーの図書館での購入を「自主的に判断すべき」だとちょっと弱いという話で、ただ、「抑制する」まで打ち出すと強過ぎると。この中間の文言はないかという話です。

3つ目は、人口当たりの規模について、注で――本文でもいいかなとは思いますが、言及すると。規模当たり適切な複本数があるというような話ですね。というような意見が出ました。

もし、オンライン参加の方、御意見がありましたら挙手いただければ。

では、特にありませんので、今出た話はこちらで引き受けさせていただくという感じでよろしいでしょうか。

では、「書店・図書館等の連携促進方策などについて」以降のことについて、何かあるでしょうか。

**【構成員】** この3ページの頭のところで、議連の一次提言の中の、「地元書店からの優先仕入れの推奨」という言葉があります。これに関して受けたところって、5ページの「今後の検討」のところだけですか。

**【副座長】** そうですね。議論がそこは進んでいないという御指摘だけ前回もらって、実際にそこは具体的にこの会議の中で話が進んでいないという状況で……。

**【構成員】** ただ、前回の会議でも、装備の問題が出たと思います。装備代無料サービス問題。ここに残したほうがよいですね。装備無料ということが書店に対して負担を強いていると。これは行政に、そのようなことに対して考え方を改める、ちゃんと購入しているところがあるんだよということも含めて、促すようなことはぜひ書いてほしいと思います。

**【文部科学省】** それは、5ページ目の今後の検討についてのところで挙げていくということです……。

**【構成員】** いや、その前のとこです。

**【文部科学省】** はい。「入札による値引きや無料での装備を求める自治体も一定数あり」という点を、4ページに入れております。

**【構成員】** ちょっと、やっぱり弱いですよね。

**【副座長】** 独立させたほうがいいというお考えで。

**【構成員】** はい。ここも、結論として強調していただきたいと思います。これが解決しないと、書店と図書館の連携って難しいですよね。

**【副座長】** ありがとうございます。複本だけでは、書店は。

**【文部科学省】** では、その問題が大きいということを。何か意見があったというよりも、その問題が連携する上で非常に大きいという指摘があったという感じでまとめます。

**【文部科学省】** 今のところも、その後の「これらを踏まえ」のところに改めて書くと

いう形ですかね。3つのところに、4つ目としての装備の話も書き込むということでおろしいでしょうか。

【構成員】 そうですね。

【座長】 順番としては、書店在庫情報システムの前がいいのか、それとも、5ページ目の優良事例の収集・普及の後に加える感じですか。

【文部科学省】 「これらを踏まえ」の辺りで図書館に要望するようなことが、先ほど複本に影響があることと、影響を踏まえて購入をしたほうがいいのではないかと。で、多種多様な蔵書が必要だよね、装備に関しても考えなきやいけないよね、みたいなことを図書館に求めるような表現が、何か、①、②、③、④になるのか、その辺は座長と御相談しなきやいけないと思うのですけど。

【座長】 じゃあ、4ページ目の結論部分の中に入れると。

【構成員】 分かりやすく、①、②、③と項目を立てたほうがいいぐらいじゃないですか。この結論のような。

【文部科学省】 というのを何か、「これらを踏まえ」の段落をうまくアレンジしてということですね。

【文部科学省】 ここをうまく。読んですぐ分かりやすいように。

【文部科学省】 4ページの結論をですね。

【文部科学省】 文章化というよりも、もう箇条書きみたいな形のほうが、良いでしょうか。「これらを踏まえ、①、②、③、④の、こういうふうにやっていく、みたいな形ですね。

【文部科学省】 そういう意味では、寄贈のことは両論あります。今、4ページの上の段落を議論しているところかと思うんですけれども、1、2、3と箇条書きにしたときに、図書館の寄贈については、問題視する意見は上がっていたということではあるのですけど、結論とするのは難しいかと思います。

【座長】 市販書籍を寄贈で充当しようということが問題なので、寄贈一般が問題だと言われると、ちょっと……。

【文部科学省】 はい。波紋が大きいのかなというのは、单刀直入に言わせていただきたいです。そこは「意見もあった」がいいのかなとは思いますけれども、いかがでしょうか。図書館側の方、寄贈は問題であると言い切るのは。寄贈と言ってもいろいろあると思います。希少本かもしれませんし。

【構成員】 定義しないと曲解されるよね。

【座長】 そうですね。

【文部科学省】 何でもというわけには。なので、結論は1、2、3で項目書きするところに、4で寄贈の話を入れるのは、ややあれかなと思いますので……。

【文部科学省】 寄贈じゃなくて装備を入れるんじゃない?

【文部科学省】 寄贈も、それは共通認識を持ったということで、「指摘があった」とかいう言い方にして、図書館が今後どうしたほうがいいよねという話は別に書けばいいと思います。

【文部科学省】 そのため、順番を変えさせていただきたいと思います。「意見があつた」は上のほうに集約して、結論1、2、3を下に回しますという意見を申し上げたかったということです。

【構成員】 ただ、寄贈されたって、受け入れれば複本になるんですよね。図書費がないから、複本したいけれどできないから寄贈してよねという発想そのものだとしたら、問題だと思います。まず、だから複本ということをちゃんと考えれば、ベストセラーが買えないから寄贈してほしいと要望することは問題ではないかと思います。

【文部科学省】 複本の延長に、寄贈を求める行為というのがあって、そこに問題意識を持っているという御意見ということですね。

【副座長】 先ほどおっしゃった、寄贈という部分も、さっきの新刊とか何か分けないと、何でも寄贈は受けちゃ駄目となると難しいですよね。

【副座長】 そこは誤解のないようになのですが、ここで今書かれているのは、いわゆる複本に関する寄贈ということをおっしゃっていたかと思うんですけど。

【構成員】 そうです。それは私も誤解を招くような言い方をしましたが、郷土資料とか非常な貴重書というのは、大いに寄贈してもらいたいという。

【副座長】 寄贈がないと成り立たない。

【文部科学省】 そういうところもあるし、一々くりにされては困ると。

【文部科学省】 ちょっと枕詞が必要ですよね。

【文部科学省】 「複本を満たすために寄贈を求めるような」みたいな、何か限定的に。

【座長】 また4ページ目の上の結論部分に戻ってしまったのですが、ほかに何か足りないところだとか、あるいは言い過ぎなところなど、御意見ございましたらよろしくお願ひします。

【文部科学省】 もし差し支えなければ、5ページの、大幅に削除の御意見が出ている部分はいかがでしょうか。例えば元々は「書店在庫情報システムと図書館の連携や「図書館本大賞」（仮称）等の連携方策の実現に向けて引き続きの検討」と入れておりましたが削除となっております。このような提案は残さなくてよいのかなど、御提案いただいておりましたけど、この段階では削除でよいか、そういうところは、いかがでしょうか。

【副座長】 この5ページの「図書館における図書の購入についても～必要もある」はそれを受けてこちらに追加したんじやなかつたっけ。もともとあるんでしたっけ。

【文部科学省】 全てではなく、もともとあって削除された文章の一部を前に持ってきています。

【副座長】 最後の、「国は」という部分は最後に持ってきて、削除したのは、書店・図書館等の連携促進方策のところに挙げてあることを、もう一度ここに書いているものです。「課題の検討を行い、実践の方策に取り組んでいく」という記述だけにしたというところです。

【副座長】 少し考えていいですか。私なりに皆さんの御意見を。

【文部科学省】 対話の場において示された提案について、今後の検討会の場で議論していくと明示的に言うか、そこはちょっと具体的過ぎるので必要ないか、繰り返しになるので不要ということになるか、一応確認をさせていただきたいと思います。

【構成員】 まあ、でも今の副座長のお話を聞けば、前に書いてあるから、もういいんじゃないですか、これで。省略で。

【副座長】 ここで、また戻って申し訳ないんですけど、複本というのがどこかで消えちゃっているんですよね。

【文部科学省】 そうですね。「優先的購入」だけが、購入にやや寄った感じになっており、連携方策をどうやって進めていくかみたいなものを議論する場ということがちょっと分かりにくくなっている感はございます。元の案では「複本や地元書店からの優先的購入等に係る論点を含め、…引き続きの検討を進めていく」としておりました。

【構成員】 ここは、「対話の場」後継の関係者協議会で、何を検討していくか、具体的に宣言している箇所です。地元書店からの優先購入1点だけ残してあとは削除するのは、私は不自然に感じました。元々は、書店在庫情報プロジェクトと図書館の連携、図書館本大賞、複本など、主なものが列挙されています。1個だけ残してあとは削る理由が、いま一つ納得できません。

【座長】 どういう文言を加えたらよろしいでしょうか。

【副座長】 元に戻してもらうのが一番分かりやすいのかなと思うんですけど、それだとやっぱり繰り返しになり過ぎるんですかね。

【構成員】 気になるなら、別に残しちゃいけないという話じゃないので。

ただ、私は「複本」という言葉を入れることについては、何かちょっと、どうするのか、そこだけは。「複本」という言葉じゃなくて、もっと図書館のあるべき姿みたいな、そういう話を書くほうが前向きかなと思うんですけど。

【構成員】 少なくとも複本ということに関して共通認識を持ちましょう、これを書店・図書館界、出版界全体に広めましょうと言っているのだから、今後検討でまた複本が挙がるというのはおかしいですね。

【文部科学省】 そういう意味では、複本は落とした方が良いでしょうか。

【構成員】 ええ。「複本の理解を広める」とかいうならまだ分かります。複本というのは当然あるわけで、あるということを出版界に理解していただいた上で、図書館側も、ベストセラーに関して考えましょうと書いています。そこを、ただ「複本」というふうに言葉だけ出ちゃうと、それはまだ解決していないのか、になりかねません。

【文部科学省】 そういう意味では例示的に「複本や」のところは落とした上で、他の例は残すということでおよろしいでしょうか？

【文部科学省】 今の話も考慮すると、この提案部分を消したこれでも、「複本」を入れずに、これでもいいんじゃないかということですよね。

【座長】 もう少し大きな概念で、新刊書籍市場に配慮した図書館の購入とか、そういう、ちょっと曖昧ですが。

【副座長】 あとは前の文章につながるような、これが複本のことだというのが分かる。

【構成員】 あと思い切って、「書店との連携を阻害しないような」とか、何かそういうのを入れてもいいかもしれないんですけどね。すごい感情論かもしれないけど。

【文部科学省】 さきほど「多種多様な蔵書を」って、ポジティブな話もあったのだから、そういうポジティブな表現を入れていただいたほうがいいと思うんですけど。

【構成員】 まあそうですね。それはそうですね。

【文部科学省】 今のこのところは、後から岡部副座長に御説明いただく資料4の協議内容のところと若干リンクしてくるのかなというのは思っています。

【座長】 そうすると、どうしますか。

【文部科学省】 5ページの元案を、もう少し例示を広げるかどうかというところですか。

【構成員】 前のところ、4ページの上のところの「これらを踏まえて」のところに結論として①から④まであるのなら、その項目をここにもう一回引き取って、結論としてこうなったよ、だから今後の検討はこうだねというような構成のほうが分かりやすいですね。

ですから、複本を一定決着したのなら、こっちのほうでは「多様な蔵書構成を検討する」とか、そういう表現になったほうがいいと思います。

【座長】 じゃあ、4ページ目のところをもう一回確認させてください。

「これらを踏まえる」というときの「これら」というのは、複本に対する認識ですね。図書館の影響は全体としては大きくなきけれども、少数のベストセラーに対してはそれなりの影響があるということを踏まえて提言することが、図書館の購入でベストセラー購入を考慮したほうがいいよ的なことをまず一つ。

あと、無料装備は書店の経営を圧迫するので、けしからんというのもあれかもしませんが、ちょっと考えてくださいみたいな話が2つ目ですね。

ほかに、寄贈の話は出ませんでしたっけ。これは特別に。

【文部科学省】 寄贈は、そういう意見もあった、で……。

【座長】 あつた、ぐらいですか。

で、複本を考える上で的人口規模も考慮しましょうというのは、メッセージとして出すのか、認識として出したほうがいいのかというのは、何かありますか。複本人口当たりを考えてくださいという話があったと思いますが。

【副座長】 それを出すと、じゃあ基準はどこにありますという話にはなりますね。

【座長】 複本の説明に加える感じですかね、じゃあそれは。特別なメッセージではなくて、説明として。

あとは、「意見があつた」という話になるのかな。

そうすると、ベストセラー購入と装備の話がここでの強いメッセージになると思いますが、そういう理解でよろしいでしょうか。あとは、このような意見が出たというのが列挙されていく。

【文部科学省】 すみません、横から失礼します。要は、複本は影響が少なくともあるということと、装備についてはしっかりいろいろと配慮しなければいけない、そういうこ

とを踏まえて、図書館として多種多様な蔵書を進めるような行動が必要ですよね、みたいなことをここで書けばいいのかなと思っているのですけれども。

【構成員】 「地域性を鑑みて」というのも足しておいたほうがいいんじゃないですか。

人口とかのこともふわっと触れることにもなりますし。

【構成員】 そうしたら、複本の前に、専門書は、図書館によって支えられているというプラスの面も書いて、ただ、一部のベストセラーに関しては複本の影響が、というふうに、それをセットにしたらどうですか。

【座長】 じゃあそうしましょう。

【構成員】 そういう意味で、3ページの①のほうで、大場構成員の論文がこの表現のままだったか気になっています。私の記憶では、専門書とか学術書の売上げに貢献しているというような、プラスというのがあったと思うんですよ。

「売上げへのマイナスの影響が大きくない」と言っていると、図書館が市場に貢献しているというのが全然読めなくて、①でほとんど影響はないけれど、②は影響があるよというと、影響の方向しか、ここには出ないですよね。

【構成員】 しかし、①、②の後に、「図書館市場に買い支えられている小規模出版社も多いとされ」、「図書館は文芸やエンターテインメント、学術など多様な本を収蔵する場であり」とあります。

【構成員】 ああ。ここにあるのか。うん。

いや、大場構成員の論文が「マイナスの影響は大きくない」だけだったかなということです。これ、引いているから、引いているんだったらその表現でいいんですけど。

【座長】 まあ、どの程度細かく書くかですね。

【文部科学省】 注記をもう少し加筆したほうが良いですか。

【座長】 注記は、日本図書館情報学会誌に、6月の論文と、ここにベストセラーの売上げの話は、ちょっと修正をした会員の声というのが12月号に出ているんですよね。そちらを参考文献にしていただいたほうが、このまとめを見る人は分かりやすいかもしれませんね。

【文部科学省】 ①、②の表現に影響もありそうでしょうか？

【座長】 特に。大ざっぱなまとめとしてはこれでいいと思います。

【文部科学省】 大丈夫ですか。では、参考文献14のところに何か参考文献を、今おっしゃっていただいた論文を書くように修正します。

【副座長】 2回目のやつですね。この表現がでているのは。

【座長】 はい。会員の声というのが、ちょっと修正を加えたものがありますので、そちらを見ていただければ。

なので逆に、装備の問題を何か書くとしたら、書店が苦しいという話を入れないとつながらないかなという気はしますね。ちょっと新たに話を加えないといけないかな。ちょっと待ってください。出版社・書店の現状……。2ページ目にあるか。

2ページ目の、出版社・書店の現状と課題を踏まえて、無料装備を問題視しているという。ちょっと言及先が前に戻るところではあるのですが。これを加える必要があると。

というので、複本に関する流れは今までいいと思いますが、装備についてはちょっとまた言葉を費やす必要がありますね。

【副座長】 ここが結論なので、ここにちゃんと説明しないと。

【構成員】 確かにベストセラーとか新刊の複本問題は、出版社にとっては、であって、対話の場が課題としているのは書店です。極端なことを言うと、図書館全体が出版市場に貢献しているといったって、問題は「うちの店にとって」地域にある図書館がどうかですから。つい、出版界全体には図書館で本を購入しているじゃないかというので納得しがちですが、それは一書店から見ると関係ない話ですよね。

その意味では、装備のほうがはるかに重要だと、議論を聞いていて思いましたので、そこを強調していただいたほうがいいですね。

【構成員】 装備代を正当化した形でお願いできるという文言にしてもらうことが一番ありがたい。

【座長】 じゃあ、その他どうでしょう。また4ページ目に戻っちゃったんですけど、問題となっていた5ページ目の最後、今後の検討についての、最後からというか3つ目の段落、2つ目の段落辺りですね。

【副座長】 私が言うことではないんですけど、かなり図書館さんに対して、複本のことだったりいろいろ、自治体がやらなきやいけないことはいっぱいあるんですけど、先ほど今村構成員もおっしゃった、じゃあ出版界もこんなことを協力するよというか、一緒にやるよというのはどこかにちゃんと入れないと、何か言われる一方だというふうには思わないですかね。

今後の検討についてもあるんですけど、ここは先ほどのように、こういうことであれば出版界も、もちろん書店さんも含めて一緒になってやっていくよというところが、あった

ほうがいい氣がするんですけど。

【座長】 具体的にはどういう文言になるでしょうか。一緒になってやっていきますつて、ちょっと……。

【構成員】 逆に、何ができるんやって話ですよね。

【構成員】 その前に、まずは、複本についてはもう言わないでというのが僕の正直な気持ちですけど。

【構成員】 さっき言ったように、ここで決めた限り、少なくとも、それでも言う人は言うだろうけど、ここにいる人間はこうこうこうなんだよということは言っていかないと、それはやっぱりフェアじゃないなとは思うんです。

【構成員】 その時に、図書館と図書館周りのファンの人たちが反論しちゃうから、お互いヒートアップするのです。これはぜひ出版社側の方に、そうではないと言っていただきたいと思うんですよ。複本に関しては。

その話が出ると、図書館ファンみたいな人たちがヒートアップしちゃうから不毛なけんかになっちゃうのであって、図書館側もそのことは言わないから、むしろ出版社とか、文芸家協会がするのか分かりませんけど、それについては我々も受け入れたというような話で、ちょっと抑えていただければなと思うんです。

【構成員】 それ、大きな一歩ですよ。初めてですよ多分。図書館のほうにもちょっと問題があるんじゃないのって、そういう言葉は使いませんけど、初めてですよ、これ多分、表に出るの。

【構成員】 今後は複本のことよりも装備のことにもう向けていくような感じで、お互いに装備について考えていくという方向で、そちらに向くようにしていったらどうですか。やっぱりこっちのほうが、どう考へても問題は問題なので。知られてないんで。

【構成員】 だからこそという意味においては、図書費の増額とかね。

【副座長】 そう。そこなんです。一緒になって図書費の増額を……。

【構成員】 それだと思うんですよ。結局それしかないんだと思う。

【副座長】 一緒に。もともと書協さんがやっていたしやいましたけど、それをもう一回ちゃんと自治体に対して、出版界からも。そうしないと、さっきのように装備代を取ったら書籍代が減るという。そこを一緒になって、予算を増やすために頑張りますと。

【構成員】 図書館とか福祉とか読書とか、この件に関して、予算がないなんて言うなって言いたいんですよ。ここは本当に議員の先生方に頑張っていただきたいと思います。

【文部科学省】 国会議員ではなくて首長さんなのですよ、ここで重要なのは。市町村長さん。

【構成員】 でも、議員は地元から出ていますから。議員の皆さん方、ぜひ地元に戻つて言っていただきたいですよね。

【構成員】 要は本の、それ以前に書籍の価格がもうどんどんどんどん右肩上がりなので、普通にしていてもこのインフレに耐え切れなくなっていますよね、図書費が増額されないと。せめてそこにはついていかないと、今、単行本2,800円とか、そんなにページ数が多くないのに、高額に値付けされるじゃないですか。

だからこそ図書費は増額方向に持っていくかないと、今までどおりの普通のことができなくなります。これに関しては出版界からも動くと。図書館と共に声をそろえてやっていくという形でつけたほうがいいと思いますね。

【構成員】 それは書店も賛成で、お分かりのように定価販売も強いられていますので、決まった金額でずっと来るということは、我々が取れる金額も固定されているわけですよ。それに対して諸雑費が上がっていますから、町の本屋さんが苦しくなるというのもそこに入っていますので。

【構成員】 細かいことを言ったら、ランニングコストというか、月々のお金が回っていくのも、こっちが上がっている速度でついていかないので、銀行融資が取れなかつたら潰れるところとか出てきますよ。で、現実問題赤字になっているところが多くて。

だから、こういうことも理由になっているし、バブルとかよかった時代に、先に最初の納品分を支払わずに次の店でとやってきたところのツケがもう来ているので、これに加えて物価高についていかなければ、結構厳しいような気がしますね、書店は。

【座長】 じゃあ、「自治体に図書費の増額を求める」というような一文を入れると。

【構成員】 増額を求めましょう。

【構成員】 やっぱり総務省ですよ。

【構成員】 この辺は、図書館界より出版界のほうがロビーイングが上手だと思いますので、ぜひ。

【構成員】 こういうのは、どこかの首長に賛同を得て、まず見本となる動きを示して、すごくみんなでそれを応援して広がっていくのが日本式だと僕は思う。僕も地元に帰つて——議員みたいなことを言っていますけど、まずは大津市から、呼びかけていきますよ。

【副座長】 ヒアリングをした中で、やっぱりそういうところもちゃんと出てくるので、

そこをちゃんと、先ほどおっしゃったいい事例を掘り下げるのと、今一生懸命、我々も、別のルートですけど議員さんのセミナーを、地方へ行って、学校図書館は今こんな状態ですというのをやっていますから、公共図書館もこんな状態ですみたいなことを、やっぱり議員さん、特に地方議員にみんなして言いに行かなきゃいけないと思います。

【構成員】 ぜひ、そういう意味では今村構成員とか作家の先生にお願いしたいです。知事とかは、作家との対談に、きっと喜んで出てきますから、お忙しいと思いますけど、お仲間にも誘って。

【構成員】 つい3日前ぐらいにも、佐賀県の知事とお会いしましたし、例えば僕が住んでいる滋賀県は、「読書人口1位」を掲げて大津市と守山市でバトルが起こっていて。こういう、図書館に力を入れている市町村などに話をし、いい事例として全国に紹介されれば、続くところも出てくるような気がしますけどね。

【構成員】 何となくそれが票につながるという、ニュアンスが伝わればですよね。

【構成員】 そのいい事例を、「週刊新潮」の記事にするとか。新潮社が図書館のことをいいって言っているということ自体が、もうニュースですよ。ぜひ。

【座長】 ありがとうございます。そろそろ時間なのですが、もし、オンラインで御参加の方、何か御意見があれば。大丈夫ですか。

【座長】 承知しました。

じゃあ、次に進めますね。多くの御意見をいただきありがとうございました。本日、構成員の皆様からいただいた御意見を踏まえ、対話のまとめ案について適宜追記、修正していきたいと思います。

対話のまとめ案の内容の調整と公表の手続等については、両副座長と御相談の上、座長一任で行いたいと考えますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【座長】 それでは、この後の修正などについては、座長一任とさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

それでは、次の議題に移りたいと思います。

それでは、議題3というか、4になるのかな、「今後の検討枠組みについて」に移ります。

副座長より説明をお願いいたします。

【副座長】 それでは、説明をさせていただきます。資料4を御覧ください。前回御覧

いただいたものに少し書き足したような形になっております。

まず、大きな違いとしては、協議会の名前を「本の文化を守る」という言葉を最初に持ってきて、まだ仮称ですが「本の文化を守る書店・図書館等による関係者協議会」としています。趣旨、協議内容については、特に変更はないかと思います。

3番目の構成のところですが、ここも基本的には変わらないのですが、「なお、ワーキングチームは実務担当者を中心として構成し、実践・検証を行うことを目的とする」を追記しています。

構成団体及びメンバーですが、こちらについては、これから具体的に御参加いただける団体と話を進めていくということになると思いますが、こちらに挙げた団体を想定しています。

全体会の座長ですが、これは出版関係団体または書店関係団体から1名と、図書館関係団体から1名の共同座長という形で運営に当たってはどうかということを考えています。

開催の頻度ですが、全体会は原則年1回以上ということで、最低でも年に1回は開催いたします。ワーキングチームについては必要に応じて開催をするとしています。

事務局については、変更はございません。その他として、「ここに定めるもののほか、本協議会に関し必要な事項は」ということを追加しております。

もう一つ、これはコメントで入れているだけなのですが、実際的には、この協議会にかかる経費等についても、今後どうするかということを検討する必要があると考えています。

実際の御参加いただく団体、または有識者の選出等については、これから早期に進めていくということになりますが、現時点ではこのような形で関係者協議会を立ち上げるということを考えています。

**【副座長】** 多分、遅いということだと思いますので、原則1回ですので、もちろん1回しかやらないという話ではありません。

基本的にはワーキングチームで、本当にもう実務的な部分をやっていきたいと、今回かなり議論をしていただきました。それぞれ、やはりこれからやるに当たっては、実際に先ほど言った、じゃあうちは協力するよ、うちはこういうことをやれるよというところにお声をかけて、実際に進めながら問題点を解決したりしていきたいというふうに思いますので、具体的には全体会のメンバーを決めて、ワーキングチームを決めていきますけども、あまり大勢でやってもなかなか進まないので、それぞれの組織を使って、そこからテーマごとにワーキングチームを集めるような形で、急いで進めていきたいというふうに思いま

す。

【座長】 では御質問、御意見のある方は举手をお願いいたします。何かありますか。  
どうぞ。

【構成員】 これはまず再三、副座長も今おっしゃったように、あるいは先ほど意見も  
あったように、スピード感は物すごく大事だと思います。もう4月にでも第1回目を開く  
ぐらいの勢いで組織しないと、我々のやる気を疑われると思います。

というぐらいの覚悟で、実際は4月は難しいかも分かりませんけど、急いでやるのがい  
いんじゃないかな。全体会をまずやって、ワーキングチームもある程度腹案をつくってお  
いて、すぐにでも始めたほうがいいかなというふうに強く思います。

それと、全体会の座長は、少なくとも図書館関係は日図協の理事長であるべきで、それ  
に対応する方が出版ないし書店の誰かトップの方にやっていただくのがいいと思います。

【座長】 その他、何かございませんか。

【構成員】 協議内容のところが、「図書館資料の地域書店からの優先的購入をはじめ  
とする」というのはちょっと弱い気がします。装備の問題が出ましたので、その文言が欲  
しいと思います。もう一つ、今後調査するとかいうようなことがあったと思うのですが、  
何かこの場で協議するだけじゃなく、「必要な資料を調査し」とか、そのような言葉があ  
っていいと思います。これだと、委員会をやって協議しているだけのように見えますけど、  
やっぱり具体的な事例を調べるというのが必要だと思います。

【副座長】 承知しました。

【構成員】 そうするとお金が必要ですよ。

【副座長】 今のところお金のめどが立っていないというところがあるので、ちょっと  
頑張って、早めに立てます。

【座長】 その他、何かございますか。

【構成員】 ワーキングチームには必ず図書流通に関わる企業の人に入っていますが、  
難しければ、私が首に縄をつけても引っ張ってきます。そうしないと、  
ほとんど意味がない議論になります。

【副座長】 それは全体会。

【構成員】 いや、全体会じゃなくてワーキングチームで。ワーキングでいいと思いま  
す。

【副座長】 ワーキングのチームのほうで。来てくれるかどうかですね、それは。

【構成員】 でも、相当問題意識を持ってていますよ。ものすごいコストアップしているわけですから。装備。

【座長】 その他、何かございませんか。

じゃあ、この協議会は動き出してから、より具体的になるでしょうということで、次に行きます。御意見をいただきありがとうございました。

本日の議題は以上です。対話の場としましては本日が最後になりますので、皆様からお一人、一、二分程度で、御意見や御感想など、簡潔に御発言いただければと思います。私が順番に指名させていただきますので、どうぞよろしくお願ひします。

【構成員】 今、図書館もすごく変革の時期を迎えてます。書店もそうだと思いますし、出版の在り方もそうだと思います。

自分はいくつか具体的な案を申し上げたつもりですけれども、これから起こる変化を恐れず、あるいは変化を起こすことが大事かと思います。本の世界を新しい時代に最適化するためには何をすればいいのか?を考え、思い切ってトライすることが、これからなされるべきことかなと思っております。自分でも進めていきたいと思います、よろしくお願ひします。

【構成員】 まずは、今日こうやって対面で集まるということが、非常に意見が飛び交う、いい場であるということはすごくよく分かりました。今日は皆さんからの発言が多くだったので、私からはあまり発言しませんでしたが、現状の課題の解決と、今後の新たな取り組みを両輪で考えていくべきだと思っています。そういうことをワーキンググループで、もう少し細かく各論の部分を突き詰めて、スピード感を持って実施をしていくということが大事だと思いました。

【構成員】 僕は、何度も言いますけど速度感というのがすごく重要だと考えており、僕自身がめちゃくちゃ早く動くこと、兵法は神速を尊ぶではないんですけど、今村翔吾はとにかく早く動くということを考えて動いております。

状況が目まぐるしく変わっている中で、速度感がすごく大切になってきているのかなというのは思いますし、ここ1週間だけでも、書店はもう数店舗潰れているニュースなどが飛び交っていますし、あとは、若い世代で独立系書店とかというのはできてきていましたけど、一方で、その人たちがSNSで「助けてくれ」みたいなことを安易に発信してヘイトがたまっていたりとかっていう状況、今まで一昔前には全然なかつたようなことが起こっているので、これに対応していくというか、僕らも進めていかなければならぬなと思

いますし、書店は減っていっていますけど、僕個人としては全然諦めていなくて、今後まだ——どこまで大きいことを言えるか分からないですけど、本屋の社長としても今後大きく広げていくつもりで、諦めずに闘っていこうと思っています。ぜひ、よろしくお願ひします。

【構成員】 議連の第一次提言が出た——その前に中間まとめの提言が出たときには、一体どうなるんだと、かなり心配しているところもあったのですが、この対話の場が始まって、本当にいい場が出来上がった、と思っています。しかも、次に向けて前向きな形になったと思います。

この書店・図書館関係者がつながっているのは、本と読者・読書が共通項ですから、まさに読者・読書を育てていくという話を、次に期待したいと思います。課題を解決するとともに、読者を広げていくことも私たちのテーマだと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。

【構成員】 今回、本に関わるさまざまなお立場の方の話を伺って、大変勉強になりました。特に、装備、値引きについてのご指摘には、蒙を啓かれた思いです。

ここ50年ほどの活字をめぐる時代状況は、実は幸せな時期だったのかもしれません。社会が大きく変動する中で、これまでのやり方が通用しなくなってきたのが現状だと思うんです。

活字文化は目に見えないものですから、なかなか実感が湧かないのですが、書店員さんや図書館員さん、作家の方々をはじめ、懸命に支えているみなさんが、実は多方面にいらして、経済性をきちんと担保しないと、もう成り立たないところまで来ています。やりがい搾取みたいな形にならないようにして、次世代の活字文化の興隆のために、みんなで協力してやっていければと思っております。ありがとうございました。

【構成員】 今、幾つか言われてしまったので、ちょっと重なるところはありますが、図書館というのは何のためにあるのかというと、結局国民の知る権利だと学ぶ権利、こういういったものを保障するというところ、そのために図書館というのがあります。

この図書館を維持するために土台であるのはやはり本であるということ、幾らにぎわいだとか人を集めるとかそういったことよりも、まず前提になくてはならないのは本ですので、その本というところに対して、もちろん書き手から始まって、書き手、つくり手、それから売り手、こここの存在というのはやはり欠かせませんので、この3者がちゃんと活きていてこそ、図書館というのはここから未来に向かって、その機能を果たすことができる

ものだと思っております。

書店にも図書館にも、読者というのがあります。その市民にどっちかを選べということではなくて、どちらでも構わないので、どちらかでなくてはいけないということではなくて、本を読む手段として存在していく、手の届くところにあるべき存在になっていきたいということが、我々図書館の中では望んでいることではありますので、そうでなければ、文字を読むという、人間の持っている文化というのは続いていかないのだと思っております。今回は大変勉強になりました。ありがとうございました。

【構成員】 本日はどうもありがとうございました。

図書館を運営する側の立場からということでコメントしたいと思います。図書館としては、地域の要請や、利用者からの要望に応えながら、今回のこの対話の場で議論になった出版業界、書店業界の実情も踏まえ、双方のバランス感覚を持って図書館を運営することが非常に重要なのだなということを実感させられました。

また、読書振興、読者を増やすということは、双方取り組んでいかなければならぬだろうということで取りまとめにもありますけれども、これをより具体的に展開していくように、図書館としても取り組んでいかなければならないのかなと実感しているところでございます。

貴重な経験をさせていただきました。今回はありがとうございました。

【構成員】 私は前々から、第1の図書館が公共図書館、第2の図書館は学校図書館、第3の図書館が書店というふうに思っていました。社会教育・学校教育において、絶対欠かしてはいけない。だからこそ書店は残さなきやいけない。そして、その書店が学校図書館にも公共図書館にも納入をして、バックボーンとして支えていく、そういう立場であり続けていきたい。

今日こういう場を設けていただけたことは、本当に書店としてありがたく思っております。なお書店が残れるような施策が、今後出てくることを切に望んでおります。

また、今日、予想に反して「装備」という言葉が皆さんの口から出てきて、装備は何かということ、本質的なものがどういうことかを理解していただいたことは、私の本望でありました。ありがとうございました。

【構成員】 今回の、これはもともと「街の本屋さんを元気にして、日本の文化を守る議員連盟」というところから出発しているわけですけども、たまたま昨日、経済産業大臣がああいう御発言をされて、経済産業省の中でそれが具体的にどういうふうに検討されて

いるのか分かりませんけど、私たちのこの会は、これから先の関係者協議会が非常に大事だと思いますので、経産省のやられることの動きを見ながら、それを補うような形で、本当の意味で文化を守るという方向に進んでいく話合いができればいいなというふうに思います。いろいろ勉強になりました。ありがとうございました。

**【構成員】** 本日はありがとうございました。4回の対話を通じまして、書店さんの現状、図書館の立場を知る機会を得ることができました。私は読書推進関係団体という立ち位置から、書店さんの現在の危機的な状況からすると、悠長なことを言っているんじやないと言われるかもしれませんけども、読者育成の視点から、最後述べさせていただきます。

紙の出版物不振の背景として、インターネットの普及、あるいはスマートの登場ということがこれまでの議題で出ていたと思いますが、今日の会議を通じて、ベストセラーの本に関しては必ずしもそうではないというようなことも知りました。

町の本屋さんを元気にして日本の文化を守るためにには、そして読書文化を町に根づかせるためには、いかにスマホに向いていた子供たちの目を書籍に向けさせることができるかということが一步じゃないかと思います。時間はかかりますけども、5年先、10年先に書籍購入の人材になっていくんじゃないかなと思っております。

現在でも、図書館教育に熱心に取り組んでいる学校はたくさんあります、ビブリオバトル大会に積極的に参加して、学校の中の書籍購入率、図書利用率が非常に高い学校もあります、また、図書館司書などが学校図書館を非常に活性化して、子供たちが図書室によく来る、そんな学校もあります。

また今日、図書館大賞の創設などの話もお伺いしましたので、そのような観点から、読書文化を根づかせ、読者層をどんどん裾野を広げていくことができるんじゃないかなと思っています。

以上です。本日はありがとうございました。

**【構成員】** 今日は本当にありがとうございました。この対話の場に参加させていただき、非常に勉強になりました。

最初は何か書店と出版界と図書館が対立するような感じなのかなと思っていました。しかしながら、書店・出版界あっての図書館であり、図書館あっての書店・出版界というところもあるのかもしれません。回を重ねるにつれ、両者は車の両輪だと強く思いました。

今後とも、またさらに書店を盛り上げるための方策の場というのが続けられるということですので、それを見守っていきたいと考えております。

【座長】 最後に副座長、私の順で発言したいと思います。よろしくお願ひします。

【副座長】 私は図書館側に立つ人間ではございますが、図書館のほうも、書店がなくなっているという問題に関して危機感を抱くべきだと思います。また、痛みも分かち合いながら、一緒に話を進めていくということが必要だろうと思います。

この対話の場4回では、まだまだ議論し尽くせていないというふうには思います。スピード感が大切というお話もありましたが、せっかくできたこういう場を、関係者協議会という形で引き継いで、さらに議論を進めていき、また有意義な実践を行っていきたいというふうに考えています。今後とも皆様にもお力をお借りしたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

【副座長】 出版側の窓口として、副座長という、力不足で恐縮だったのですが、本当に4回の中でここまでまとめていただきまして、本当にありがとうございます。

多分、これが発表されると、すごくよく受け取ってくれる方と、勝手に決めてという、いろんなものが皆さんのところに来ると思いますけども、これはもう先に進むしかないものですから、いずれにしましても、これからが本当に大事かと思います。

ちょうど経産省さんもそういうお話もありますので、書店さんの経営の大きなところにやっぱり図書館さんというのはありますので、ここはいずれは一緒になっていくことだと思います。

ただ、一言申し上げたいのは、多分経産省さんも黙っていて補助金をくれるわけではないでしょうし、何もしなかったら何もならないと思います。多分この取組も、図書館さんも書店さんも一緒に動かない限りは、黙っていたら何かなくなるだろうと思っても、それはなりませんので、やはり、一緒に動くということをやっていただける方々と一緒に進んでいきたいというふうに思いますので、引き続きよろしくお願ひします。

【座長】 最後に私、大場ですが、研究者という立場で参加させていただきました。この図書館の蔵書研究自体を始めたのは2000年前半で、まだ無料貸本屋論争が華やかなりし頃でした。

ただ、数学というか統計上のテクニックがなくて、なかなか出版への影響まで分析することができませんでしたが、20年かけてやっと、さきの論文のような研究ができるようになりますて、何とかこの対話の場に研究成果を間に合わせることができて、肩の荷が下りたというか、ちょっとほっとしております。

ただ、これで終わりではないということは分かっておりまして、これからが図書館と出

版界、協力してスタートラインに立って、事を始める事になると思います。

私も日本図書館協会の出版流通の委員長をやっておりまして、そこで研究者として関わりつつ、図書館協会の人間としても、出版流通関係者とコミュニケーションを取っていきたいと思いますので、今後もよろしくお願ひいたしますということです。

拙い座長でしたが、終わってちょっとほつとしております。ありがとうございました。  
では、そろそろ終了時刻が近づいてまいりましたので、意見交換はここまでとさせていただきたいと思います。

なお、先ほども確認いたしましたように、資料3の対話のまとめに関わる今後の文章の修正などに関しましては、両副座長と御相談の上、座長一任とさせていただき、確定版については3月中をめどにまとめて、日本図書館協会、出版文化産業振興財団のホームページに公表し、周知をできればと思います。

本対話の場においては、昨年10月から本日を含めて4回開催してまいりました。これまで、各委員の皆様の御協力により円滑に議事を進めることができましたことを、座長としてお礼申し上げます。

最後に、事務局の文部科学省からも一言お願いします。

**【文部科学省】** 共同事務局を務めさせていただきました文部科学省でございます。4回にわたりまして、対話の場に御参加いただきましてありがとうございます。

対話のまとめに関しまして、座長一任ということになりましたけれども、我々に関わることに関しましては、しっかり受け止めて対応させていただこうと思っています。

こちらの対話の場では、出版業界の方、書店業界の方、図書館業界の方、教育委員会の方という形で集まっていたいただいたところでございますけれども、子供の読書活動を推進する場面としましては、高島構成委員からもありましたとおり、学校図書館でありましたり、様々な公的なものを進めていらっしゃいます市町村長部局も関わってくるところでございます。そういったところも併せて、我々もしっかりと、子供の読書活動の推進のために進めなければなと思っています。本日はありがとうございました。

**【座長】** それでは、これで閉会とさせていただきます。皆様、お忙しいところ御出席いただき、どうもありがとうございました。

— 了 —